



ブラジルから

こんにちは Boa-tarde ホ"ア タ"ルヂ"



サンパウロ日本人学校
2017.6.18
No. 19

ブラジルの大自然③ Parque Nacional dos Lençóis Maranhenses

写真: trip2gether

● レンソイス・マラニャンセス国立公園 ●

レンソイスとは、ポルトガル語で「シーツ」という意味です。真っ白いシーツを広げたような砂丘の中に、雨季（6～9月）には無数の青い湖が現れます。大西洋に接した砂丘ですが、この水は海水ではなく、雨水。砂丘の下が固い岩盤になっているため、雨がたくさん降ると地表にあふれ出てくるそうです。



この白い部分がレンソイス。
岡山市の2倍の広さです。

大西洋

ブラジル

地図: Google



白い砂の正体は、水晶としても知られる石英という透明な鉱物。100 km南に流れる川によってけずられ運ばれてきた石英が、海岸に打ち上げられ、強風で吹き飛ばされて砂丘の姿になったそうです。



いつも風速 10m ぐらいの風（傘がさせない強さ）が吹いているため、砂丘の表面には、様々な模様が表れます。



ふしぎなことに、乾季には水がなくなってしまう湖に、たくさん魚が泳いでいます。



雲とつながる白い砂丘、空の色を映し出す砂と湖。幻想的です。



写真: michaelandersongallery



ブラジルから

こんにちは Boa-tarde "ボア ターレ"

サンパウロ日本人学校

2017.6.17

No. 18



● フェスタ・ジュニーナ(6月祭) ●

ブラジルのお祭りと言えばカーニバルがとても有名ですが、カーニバル以上に生活にとけこんだポピュラーなお祭りが、「フェスタ・ジュニーナ」です。6月に集中しているキリスト教の聖人の記念日と、収穫祭が合わさって始まったとされています。



↑ 写真：浦添市

小さな旗をかざった教会や学校が、フェスタ・ジュニーナの会場。その下でアコーディオンの伴奏に合わせて、男女ペアでクアドリーリヤと呼ばれるダンスをおどります。



フェスタ・ジュニーナには定番のメニューがたくさんあります。6月は、ブラジルの「冬」。赤ワインにさとうとくだ物がたっぷり入れたホットワイン「ヴィーニョ・ケンチ」(↑)や、カシャーサと呼ばれるサトウキビで作ったお酒にしょうがやシナモンを加えた「ケントン」で体を温めます。



ボーリング(↑)、魚釣り(↓)、的当てなど、子どもたちが遊べるコーナーもあります。



リンゴあめ(→)もその1つ。



6月はトウモロコシの収穫期。トウモロコシのメニューは豊富です。ふかしトウモロコシやポップコーン、ケーキ以外にもいろいろあります。



(左) トウモロコシを使ったプリン「クラウ」
(右) 白いトウモロコシを牛乳とコンデンスミルクで煮た「カンジッカ」。つぶつぶがしっかり残っています。日本でいうおしるこのような感じのスイーツです。



このお祭りでは、田舎風のファッションをします。男子は、麦わら帽子をかぶってひげを描き、チェックのシャツやつぎはぎだらけの服を着ます。女の子は、そばかすのメイクや三つ編みをして、あざやかなワンピースを着ます。





ブラジルから

こんにちは Boa-tarde ホ"ア タ"ルチ"

サンパウロ日本人学校

2017.5.22

No.17



↓地図：NASA



ブラジルの大自然② Floresta Amazônica

● アマゾン川の動物 ●

地球最後の秘境といわれているアマゾン。世界最大級の熱帯雨林（ジャングル）で、面積は日本国土のおよそ 15 倍です。ここには、地球上に生きる動植物の 3 分の 1 以上が生息しているといわれています。

アマゾン熱帯雨林は南アメリカの 7 か国にまたがっていますが、60%はブラジルにあります。

そこを流れるアマゾン川の流域面積（雨が流れこむ部分の広さ）は、世界第一位。全世界の川の 5 分の 1 の水量になるそうです。雨の多い 12～5 月（雨季）には水がふえ、森林の中に川が広がります。乾季との水位のちがいは、なんと 10m 以上！



▶乾季



▶雨季

↑写真：Ariau Amazon Towers

水の色は支流によって異なり、黄土色や黒色をしています。水温や流れる速さがちがうため、なかなか混ざらないそうです。

▶手前が黄土色、奥が黒色の川 →写真：Wikipedia



↑写真：Pokémon Amino

アマゾンマナティー（絶滅危惧種）

クジラよりもゾウに近いほ乳類、マナティー。魚を食べず草だけを食べるのは、水の中にすむほ乳類で、マナティーだけだそうです。乾季は水草や藻を食べていますが、雨季に水がふえて森が水に沈んだ時には、くだ物やマメ、葉も食べます。

アフリカ、アメリカの海にもマナティーは生息していますが、アマゾンマナティーは、淡水（真水）のみにすんでいます。他のマナティーに比べて皮ふが黒いのは、にごったアマゾンの川で目立ちにくくするためです。

黒く美しい光沢をもったマナティーの皮を利用して肉を食べたりするために、捕まえて殺してしまう人もいます。絶滅のおそれがあるため、国立アマゾン研究所などでは弱ったマナティーを保護し、日本と協力して自然に返すプロジェクトをすすめています。



↑写真：伊藤忠商事

←写真：National Geographic

アマゾンカワイルカ

「ピンクイルカ」とも呼ばれています。イルカの多くは海で生活していますが、このイルカはアマゾン川の広い範囲に生息しています。

細長いくちばしのような口をもっていて、川底にいるカニや小魚を食べます。海のイルカとちがって、頭を大きく動かさず。

↓写真：Caters News Agency



↓写真：Pokémon Amino



ピラルクー

体長2～3m、世界最大の淡水魚です。1年で1m成長し、大きいものは3m以上になります。1億年昔からほとんど姿が変わっていないとされ、「生きた化石」と言われています。

魚としてはめずらしく、たまに水面に口を出して息つきをします。ウロコはとても大きくがんにょうで、漁師のりもはね返すことがあるそうです。ウロコは電動ドリルでごうかいに取り、つめやすいや靴べらとして使っていました。

身の危険を感じると勢いよく水面から飛び出すため、カヌーやボートに当たって転ぶさせたり、人が体当たりをくらい重軽傷を負ったりするなどの事故もあるそうです。

ワイルドな風ぼうや性格ですが、肉はきれいな白身で、味はアマダイに似ているとか。サンパウロの近くの町に養殖場もあり、レストランなどに出荷されているらしいです。

↓写真：Monsters Pro Shop



(右) 舌の骨

タンバッキー（コロソマ）

1mを超えるピラニアの仲間。人のような歯をもっていますが主食は植物で、木の実などをくだいて食べます。

脂がのっていて、アマゾンで最もおいしい魚とも言われているようです。



↑写真：トジョウエンジン



【魚市場】 魚は食料として、アマゾンで生活している人々の生活と密接に結びついています。

川魚は小骨が多いため、市場では細かく骨切りをして売られています。ナマズは小骨が少ない白身魚で、アマゾンでよく食べられています。



写真：Wikipedia

熱帯魚

(左) ラミーノーズテトラ、(右) カージナルテトラ。日本でおなじみの熱帯魚もアマゾン原産です。



ブラジルから

こんにちは Boa-tarde ホア タールヂ

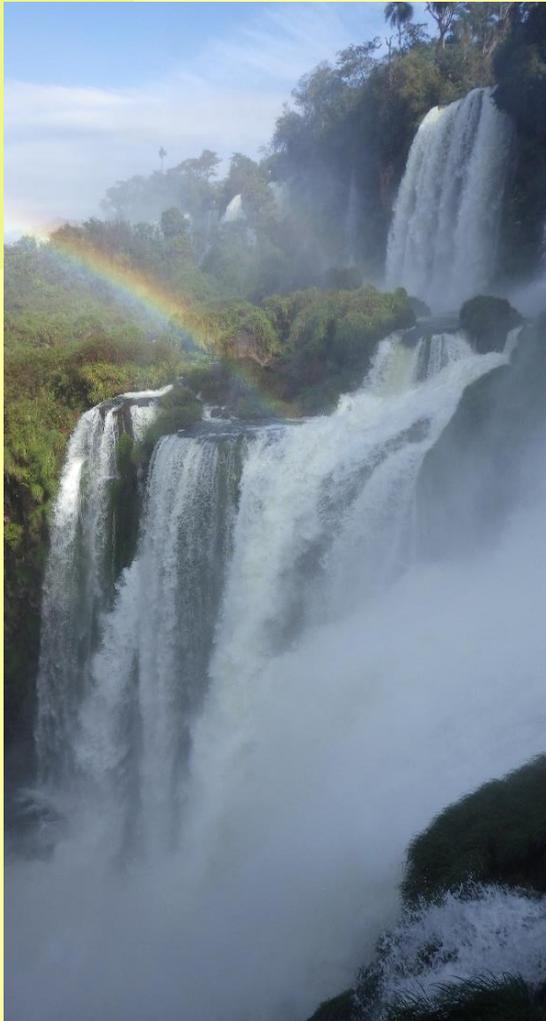
サンパウロ日本人学校
2017.1.28
No.16



ブラジルの大自然① Cataratas do Iguazu

● イグアスの滝 ●

サンパウロから飛行機で約1時間、ブラジルとアルゼンチン、パラグアイの国境付近に、世界で有名な3つの滝（世界三大瀑布）の1つ、イグアスの滝があります。



←“悪魔のどぶえ”と呼ばれるイグアス最大の滝。すさまじい勢いで水が流れ落ちる光景は、迫力満点です。水しぶきで下は全く見えず、その水が風にあおられ雨のように降ってくるので、ずぶぬれになります。

「イグ・アス」というのは先住民の言葉で「大いなる水」という意味だそうです。



↑虹に彩られた滝。満月の夜には、月明かりに照らされて虹が現れるそうです。

→275個もの滝が4kmに渡って連なっており、場所によっていろんな表情を見せています。

世界三大瀑布：「幅のイグアス、高さのヴィクトリア、水量のナイアガラ」と言われています。

200L の浴そう
8700 ばい分

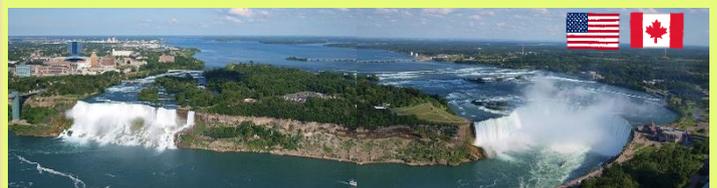
★イグアスの滝 滝の数…275個、幅…4000m、最大落差…82m、1秒あたり平均水流量…1756 m³

★ヴィクトリアの滝

滝の数…1個
幅…1708m
最大落差…108m
1秒あたり平均水流量…1088 m³



★ナイアガラの滝 滝の数…3個、幅…260m/670m、最大落差…54m、1秒あたり平均水流量…1833 m³



ブラジルから



こんにちは Boa-tarde ホ"ア タ"ルチ"

サンパウロ日本人学校

2016.12.8

No.15



● フラジルのスイーツ ●

ブラジルのスイーツには、コンデンスミルク（練乳）が欠かせません。たくさん入れるので、とってもあまいものが多いです。また、ココナッツもよく使われています。



パーラジココ (Bala de Coco)

ココナッツミルクからできたキャンディです。ラムネのような食感ですぐにかみ砕くことができます。パイナップルやパッションフルーツ、ライムなど、フレーバーも豊富です。



ブリガデイロ (Brigadeiro)

コンデンスミルク、ココアパウダー、バターを煮つめて作ったトリュフのようなチョコレートのおかし。誕生日や結婚式などのパーティで必ず見かけるそうです。チョコレートスプレーやココナッツでかわいく飾りつけてあります。



ココーダ (Cocada)

ココナッツスライスをさとうで煮つめたあめがし。カラメルや卵黄を加えることで、黒いココーダや黄色いココーダになります。



ココナッツは、熟した実の内側の白い部分を削ったり、加工したりして、いろいろな料理に使われます。

↓写真：季節の花 300



チョコレートの原料であるカカオ。ブラジルは世界第6位の生産国です。(2013年)



アサイー (Açaí)

アサイーは、ブラジルのアマゾンが原産のヤシで、実はブルーベリーに似ています。ポリフェノールや鉄分などの栄養価が高いので、日本でも注目されていますね。スムージーにして飲んだり、シャーベットにしてバナナやイチゴ、グラノーラ、コンデンスミルクなどをそえて食べたりします。



↓写真：サンパゾン社 HP



アホースドゥスイ (Arroz Doce) = あまいお米

お米を牛乳で炊いて、コンデンスミルク、シナモンで味付けをしたもの。ココナッツも入れます。(ブラジルでは、よくお米を食べます。日本米も何種類も売っています。)

ブラジルから



こんにちは Boa-tarde ホ"ア タ"ルヂ"

サンパウロ日本人学校

2016.10.13

No. 14

じゅもくへん

● ブラジルの花～樹木編～ ●

ブラジルは日本と違う気候のため、日本には見慣れない植物がいろいろあります。

★**パイネイラ**は、日系人に「ブラジル桜」とも呼ばれています。日本の桜と同じように4月頃、花を咲かせ、木がピンク色に染まります。



←（6月）マンゴーのような形の果がいっぱいあります。実はインコの好物なのでたくさんの鳥が寄ってきます。



↑（4月）新一年生とパイネイラの花。

桜のようにひらひらと花びらが散るのではなく、1つの花が丸ごとポタッと落ちます。

ふかふかの綿は、まくらやぬいぐるみのつめ物として使われるそうです。



←（9月）実の中には綿がつまっています。鳥がついて穴が開き、中から綿が出てきました。木の下は綿だらけに。この中に種子があって、風でふわふわと遠くへ飛ばされます。

★**イPPERアマレーロ**は、ブラジルの国花の1つです。ブラジルの春である9月ごろ、一斉に鮮やかな黄色い花を咲かせます。「アマレーロ」はポルトガル語で「黄色」という意味で、他にも白い花や紫の花が咲くイPPERもあります。

花は短い期間にパッと咲いて、すぐに散ります。



かたいため建築資材として使われます。木の皮は万病の薬として知られているそうです。



★**コーヒー**の木も9月、花を咲かせました。（左）

★サンパウロの街路樹には、よくランの花が植え付けられています。（下）



ブラジルから



こんにちは Boa-tarde ボア タールデ

サンパウロ日本人学校

2016.9.6

No. 13



● 他民族国家・ブラジル ●

リオデジャネイロ・オリンピックの開会式・閉会式では、「ブラジル文化の多様性」が表現されていましたね。ブラジルは世界中の国から移民を受け入れたため、いろいろな人種の人々が生活しています。街を歩いている人の外見は多種多様ですし、食べ物や音楽、衣服など様々なところで文化が混ざっています。

“サンバ”もアフリカから来た人々（農園で働かせるために奴隷として連れてこられた人）などの音楽をもとに生まれたものです。

サンパウロにある「移民博物館」では、毎年“移民祭”が行われており、ステージで伝統的なダンスがくり広げられたり、各国の料理や民芸品が売られたりしています。

郷土料理

→コンゴ共和国
↓ノルウェーのサーモンサンド



←メキシコの
タコス



ステージ ダンスも衣装も様々です。

← ポリビア ↓ モロッコ



ブラジルの言葉 = ポルトガル語で表すと、聞きなれない国名がたくさんあります。

① Inglaterra

② Espanha

③ Alemanha

日本は
Japão



↓日本からは、和太鼓が披露されました。



移民博物館 およそ40年前までの100年近く、各国からの移民が一時的に収容されていた施設です。約80か国からの移民が登録されているそうです。

ブラジルから



こんにちは Boa-tarde ボア タールデ

サンパウロ日本人学校

2016.8.20

No.12



● リオ・オリンピックと日本 ●

今、ブラジル・リオデジャネイロで開催されているオリンピックでは、連日、日本選手の活躍が報道されています。

その活躍の裏側でも、「日本」がオリンピックに深く関わっています。



写真：ニッケイ新聞 HP→

NHK ↓



≫ 今日、日本は原爆の日。

開会式（8月5日＝日本時間の8月6日）では、「ブラジルの歴史」や「環境保護」などが表現されました。そして、広島原爆投下の時間に合わせて、ブラジルにやってきた日本の移民について演出されたのです。（*「移民」については、No.10で紹介）



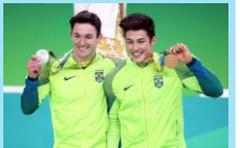
↑ マスコットキャラクターのトム（左）、ビニシウス（右）。トムは南米の豊かな植物、ビニシウスはネコ・サル、鳥などの動物をミックスして、いろいろな人種が住むブラジル文化の多様性を表しています。デザインしたのはブラジルの日系人（*外国に移住した人とその子孫）の方です。

↓ ブラジル全土 26 州 83 都市を回った聖火リレー。サンパウロ市にも7月24日にやって来ました。この聖火トーチをデザインしたのも日系の方です。伸びて波のような模様が現れるデザイン。リオの太陽、山、海などを表現しています。



柔道、体操、卓球、水泳などのブラジルの代表選手や指導者の中には、日本の血を引きつぐ日系人の方が何人もいます。今回「体操男子団体決勝」にも2名出場し、金メダルを取った日本代表と競っていました。（そのうちの1人、アルトゥール・オヤカワ・マリアーノ選手（右）は「種目別床」で内村・白井選手を退け、銅メダル。）

特に柔道は、日本の移民たちが選手強化に貢献してきたため、毎回ブラジルにメダルをもたらしています。



写真：サンパウロ新聞 HP

公式車両は、日産。4000台以上が街中を走っています。（リオ近郊に日産の工場があります） ↓ 「メイドイン・ジャパン」もいろいろ



団体戦で盛り上がった卓球の台は日本製です。脚の部分は、岩手県宮古市の木材を利用し、被災地の復興への思いをこめたそうです。 ↓



南米大陸初の開催地、リオデジャネイロについて、日本では「犯罪」「ジカ熱」など、マイナスの報道ばかりされていました。でも、日本から観戦に来た人が言っていました。「来る前はすごく心配していたのだけれど、来てみたら、ブラジルの人たちはとても親切だった。」

道で外国人が立ち止まっていたら多くの人が「どうしました？」と声をかけ、地下鉄では「ここで降りて」とジェスチャーを交えて教えてくれる。観客は一生懸命声援を送り、ボランティアの人たちも笑顔で仕事をしている。すてきな空間でした。

ブラジルから



こんにちは Boa-tarde ホ"ア タ"ルデ"

サンパウロ日本人学校

2016.7.3

No. 11



● せいだいさい 聖体祭 ●

ブラジルにはキリスト教徒が多く、キリスト教にちなんだ祝日がいくつかあります。「聖体祭」もその一つで、今年は5月26日でした。

この日は、特別なミサ（儀式）が行われ、その後神父さんを先頭に教会から街へ向かって行進します。その道を、花びらや砂などで華やかに飾るのですが、完成した道は、まるでじゅうたんを敷いたかのようにあざやかです。

ブラジル各地で、それぞれ昔ながらの方法で行っているようですが、サンパウロ市の近くにも、このイベントで有名な町があります。朝早くから色がつけられたカラフルな木くずをていねいに敷きつめていました。



↑ ①チョークで道路に下絵を描いていきます。区画ごとにグループで作っていきませんが、主催者によって描く絵が決められている部分（行進する順に物語になっている）とグループで考えて作っている部分があるそうです。

↓ ②細かさがいろいろな木くずを使っています。白い部分は、昔は卵のからを使っていたそうですが、今は石灰です。



↑ ③描くのは、キリストにまつわるイラストです。白いハトもよく描かれます。木のぼうや定規などを使って、ていねいに木くずを敷きつめていきます。

→ ④完成すると、全長約830m。約1200人で作り上げるそうです。

↓ ⑤最後には、この木くずのじゅうたんの上を行進してまいります。

↓ 写真：地球の歩き方 HP



ブラジルから



こんにちは Boa-tarde ボア ターラヂ

サンパウロ日本人学校

2016.5.27

No. 10



● ブラジルの農作物と日本 ●

ブラジルにはもともとインディオの人たちが住んでいて、マンジョッカ (No.4 で紹介) を主食にして生活していました。その後、ポルトガルやアフリカから人々が渡ってきて、サトウキビ (No.8 で紹介) や米などを作り始めましたが、200 年ほど前まで、ブラジルでは約20種類の作物しか栽培されていなかったそうです。

しかし、その後イタリアやドイツ、オランダなど、様々な国から外国人が移り住み (移住した人々のことを「移民」といいます)、それぞれ自分の国で慣れ親しんでいた作物を持ちこむようになりました。

中でも日本からの移民は、日本の農作物を取り入れるだけでなく、ブラジルに住む人々の好みと自然条件を考えながら外国の作物も取り入れたり、ブラジルにもともとあった作物も改良したりして、ブラジルの農作物の種類を豊かにしました。

↓ 約200年前にすでに栽培していた作物。

トウモロコシ, タマネギ, カボチャ, サトイモ, ニンニク, サツマイモ, マンゴー, オレンジ, グァバ, パパイア, パイナップル, ココナッツ, コーヒー, カカオ, 綿花, タバコなど

→ サンパウロ日本人学校にできたバナナ。このかた

まりに101本ついでいました。

→ フェイラ (青空市) にならぶ、カラフルなインゲン豆。



また、ブラジルは未開拓の広い土地をもつため、生産量を増やすためにどんどん森林を切り開いて耕地を増やすという方法をとっていました。しかし土地がせまい日本は、肥料や農薬を用いながらいろいろな作物を作り、たくさん収穫するという形が発達しており、その農法もブラジルに広めました。

日本人はブラジルの食生活を支え、農業の近代化に貢献したといえます。

↓ 日本の移民が導入したり改良したりして、ブラジルに広めた作物。

★ポンカン, イチゴ, カキ, スモモ, リンゴ, メロン, ピワ, ナシ, モモ, ブドウ, スイカ, ウメ, クリ など

★白菜, 長ネギ, 大根, ゴボウ, ニラ, レタス, ニンニク, ジャガイモ, ナス, ニンジン, ピーマン, キュウリ, トマト, サヤインゲン, オクラ, 日本カボチャ, キャベツ, ショウガ, エンドウ, タケノコ など

★花づくりや養鶏 (たまご), 養蚕 (絹糸) でも活やくしています。

↓ 今が旬のカキ。ブラジル人はやわらかく熟したカキが好きです。生産者シールには「元」の文字。



→ MAÇÃ (=リンゴ) Fuji (フジ), GOBO (ゴボウ), POKKÁ (ポンカン) のように、

日本と同じ名前で売られているものもあります。

←きれいに並べられた野菜。大根や長ネギ, 白菜などは日本から持ちこまれました。



ブラジルから



こんにちは Boa-tarde ホ"ア タ"ルデ"

サンパウロ日本人学校

2016.3.14

No.9



● カーニバル ●

ブラジルというと、今年オリンピックが開催される、リオデジャネイロの「カーニバル」を思い浮かべる人が多いですね。

★カーニバル（ブラジルでは、「カルナヴァウ」といいます）

キリスト教の最大教派、カトリック教会の「謝肉祭」のこと。もともとは、お肉を食べてはいけない期間に入る前の、肉に別れを告げるお祝いのことでした。

地域によって異なりますが、一週間ほどあり、最終日が火曜日になります。この期間は春分の日と満月の日の影響を受けるため、毎年変わります。（リオでは、大体2月から3月初めの土日月火、4日間）

カーニバルは現在、仮装してパレードしたり、おかしを投げたりと世界各国で様々な形で行われています。ブラジルでも各地で特色のあるカルナヴァウが開催され、観光客と一緒にパレードできる都市もあります。



↓ カーニバルの期間中は、「ブロック」と呼ばれるいくつかの市民グループが町中の道路で行進。どこにもぎやかです。



写真: ニッケイ新聞

↓ メインパレードは、サンバの専用競技場で行われます。全長700m、約8万人が入る会場です。優勝を目指して、約80の「エスコラ・ジ・サンバ（サンバ学校）」が競い合います。スペシャルグループは夜の9時半にスタートし、1つのチームが1時間20分かけて、パレードを行います。（サンパウロにも同じような競技場があり、コンテストも行われています。）



★エスコラ・ジ・サンバ（サンバ学校）

各チームは、2500～4000人の規模で動いています。まず、その年のチームのテーマ（ブラジルに関係するもの）を決め、テーマに沿った曲や山車、衣装を作り、ダンスの振り付け、打楽器隊の練習など、一年をかけて準備を進めていきます。

今回紹介するのは、「サントス」という港町の発展をテーマにしたチームのパレード。

↓ サトウキビやコーヒーの生産、輸出で発展した都市なので、サトウキビやコーヒーカップ、コーヒー豆で飾った衣装の人たちや山車（だし）が次々に登場。イメージと違って、セクシーな衣装を着ている人は、あまりいません。



↑ “サッカーの王様”と呼ばれるペレの所属したチームが「サントス FC」。ペレに扮した子役ダンサーがいつの間にか大きく成長し、大きくふくらんだ風船のサッカーボールの上を走り回っていました。



←山車（だし）は、高さ10mぐらいのものが、5～7台も出てきます。



↓打楽器隊は、200人以上。大地をゆるがすリズムで1時間以上演奏を続けます。そして、パレード参加者全員で、テーマ曲を歌っています。



↑チームの旗を持っておどる男女ペア。チームの顔です。



ブラジルから



こんにちは
Boa-tarde
"ボア タールデ"

サンパウロ日本人学校

2016.1.4

No.8



● サトウキビ ●

ブラジルは「サトウキビ」の生産量が世界第一位(2013年)です。世界の約40パーセントを生産しています。

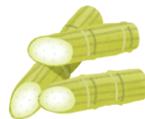
サトウキビからつくられるのは、もちろん砂糖。日本は鹿児島や沖縄で生産されたサトウキビの他に、北海道で生産されるてん菜からも砂糖を作っています(*1)が、ブラジルでは、全てサトウキビから作られています。

しかし、生産されるサトウキビのうち、砂糖になるのは約半分だけです。残りの大部分は、「バイオエタノール」という燃料になり、主に車の燃料として使われています。このバイオエタノールの生産量は、世界第二位です(*2)。

また、米から日本酒が造られるように、サトウキビからブラジル特有のお酒も造られています。

*1) 日本国内の原料から生産される砂糖は、全体の3分の

1だそう。残りは、輸入した原料糖からつくります。



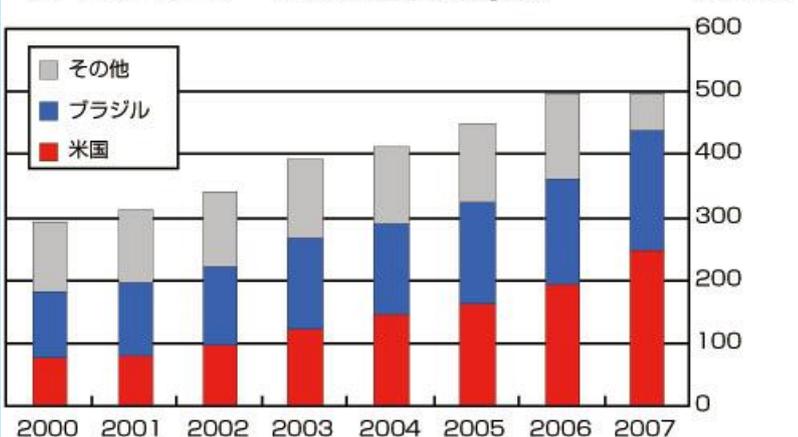
*2) 第一位はアメリカで、トウモロコシからつくっています。



↑ブラジルで走っている車の大部分は「フレックス車」。ガソリンとエタノールを混ぜて利用できます。日本メーカー(ホンダやトヨタなど)も、フレックス車をブラジルで生産しています。

↓ガソリンスタンドで、ガソリンやエタノールを選んで給油できます。

バイオエタノールの生産量の推移



バイオエタノールは、石油のように“限り”がなく、地球温暖化の原因になる二酸化炭素の総排出量もふえないとされ、環境にやさしいといわれています。グラフのように生産量はどんどんふえています。

グラフ: 山口義行・公式WEB

写真: 伊藤忠商事株式会社

しかし、生産量をふやすためにサトウキビ畑を広げていくことで森林が失われ、自然破壊が進んでいるともいわれています。



↓サトウキビから造られたお酒「カシャッサ」



写真: www.MUCHA-SUERTE.COM

ブラジルから



こんにちは Boa-tarde "ボア タールデ"

サンパウロ日本人学校

2015.12.8

No. 7



● 食 事 ●

ブラジルは国土が広く（日本の約 22.5 倍、世界第 5 位）、赤道近くの北部（暑い）や南部・高原（すずしい）など、場所によって大きく気候が異なります。また、海に面したところやアマゾン川流域など土地の様子によっても、食材が様々です。そのため、その土地ならではの郷土料理がたくさんあります。

さらに、日本をはじめポルトガルやイタリア、ドイツなどから多くの移民が来たため、各国の食文化が取り入れられ、いろいろな料理が食べられます。

日本の大きさとくらべると...?



↑世界第 2 位の生産量をほこる牛肉。ブラジルの肉牛は、背中にコブがある牛が主流。肉のあらゆる部位を炭火で焼いた「シュハスコ」は、ブラジルの代表料理です。「ピッカーニャ」と呼ばれる腰からお尻にかけての赤身のお肉が人気です。



写真: 駐日ブラジル大使館



←ブラジルの家庭料理、「フェイジョン（豆の煮込み）」と白米。

↑豆の種類は豊富で、市場でもたくさん売られています。



←北東部の鍋料理「ムケッカ」。魚介や野菜をヤシの油とココナツミルクで煮込んだもの。白米の奥にあるのは、魚のだし汁にマンジョッカ（No. 4で紹介）の粉を入れた、のり状の付け合わせおかず。

↓「ボーロ・サウガード（しよばいケーキ）」。日本人学校のポルトガル語の先生がお祝いに作ってくれたものですが、とっても大きくて、びっくりです。表面はポテト、中に鶏肉入り。



サンパウロでは、イタリア移民が広げたピザやパスタを食べられるお店がいっぱいあります。日本の料理もすっかりおなじみです。「スシ」や「ヤキソバ」はポルトガル語として定着しています。屋台もあり、スーパー

ではおそうざいとしておすしが並んでいます。イチゴ入りのおすしも。



ブラジルから



こんにちは
Boa-tarde
ボア タールデ

サンパウロ日本人学校

2015.11.2

No.6

★番外編★



● サンパウロ日本人学校 ●

もうすぐ創立 50 周年となる、小学部・中学部をあわせもつ学校です。日本と同じ教科書で、同じように学習していますが、ブラジルで使われているポルトガル語の授業や、ブラジルの学校の子どもたちとの交流もしています。

現在 200 人強の子どもたちが通っていて、小学部 9、中学部 3 の計 12 クラスあります。お家の方の仕事の都合で出入りが激しく、各クラスで毎月のように編入生を迎え入れ、退学者を送り出しているのが特徴です。



↑ 森のようにになっているところから内側が全て学校の敷地。体育館・運動場・25m プールの他にも屋根付きの運動場、バナナ園やコーヒー園もあります。(収穫したバナナはとてもあまくておいしいです。) 丘の上にあるので、移動するときは坂道だらけです。



↑ 安全のため、スクールバスで登下校。サンパウロは渋滞が激しいため、1 時間以上かけての通学です。バスよりも高い塀が学校の周りを取り囲み、ガードマンの方も何人も働いています。警官も毎日パトロールにやってきます。



↓ デング熱対策に、蚊取り線香は毎日つけます。



↑ いろいろな所にできているアリ塚。噛まれると、すごく痛いです。



↑ 人気者のリクガメ。大人の頭よりも大きく、とても重いです。



学校行事は小学生と中学生が一緒に行います。

運動会はブラジルの国旗の色、緑と黄色に分かれて競いました。



学習発表会は全員で演奏やダンスをする「全校サンバ」を行うのが伝統です。パンデイロ、スルド、カイシャなどのブラジル楽器を使っていろいろな曲を発表しました。



ブラジルから



こんにちは Boa-tarde ボア ターデ

サンパウロ日本人学校

2015.11.1

No.5



● くだもの ●

ブラジルには、リンゴやナシ、ブドウ、オレンジなどの他にもくだものがたくさんあります。日本でおなじみのバナナ、パイナップル、マンゴー、パパイヤなど以外に、見慣れないトロピカルフルーツもいっぱい。

フェイラ（青空市）の品ぞろえは、季節によって少しずつ変わりますが、イチジクやカキ、ポンカン、デコポン、モモなども売っています。

→ブラジルでも人気の日本料理、すし。イチゴが使われているものも…。



→ココナッツ水を飲む屋台は公園などにたくさんあります。中の空どうにたまっている水を、ストローをさして飲みます。



その後はナタで真っ二つに割ってもらって、空どうの周りに少しある、白い部分を食べてもできます。

↓(左)ブラジルのB級グルメ、パステウ。長方形の形をしたブラジル版あげぎョウザ。どこのフェイラにもこれを売る屋台があります。チーズや牛ひき肉など、中身の具を注文してあげてもらいます。



←(右)カーウド・ジ・カーナ（サトウキビジュース）

パステルの店のとなりに必ずあって、機械でサトウキビをしぼってジュースにしています。たくさんあるくだものの中から、好きな果汁をブラスしてもらいます。→

→屋台では、選んだくだものをたっぷり入れて、その場でジュースにしてくれます。



←ジャブチカバ

みぎ幹に直接、花が咲き、実がなります。生でも食べますが、ジャムやゼリーなどにも加工されます。



←フルッタ・ド・コンデ

釈迦頭（表面のでこぼこがお釈迦様の頭の形に



様子が似ていることから）とも呼ばれています。熟すとクリーム状になって手で触るとボロボロくずれます。かわった食感でとてもあまいです。



ブラジルから



こんにちは Boa-tarde ボア ターラヂ

サンパウロ日本人学校

2015.9.8

No.4



● マンジョッカ ●

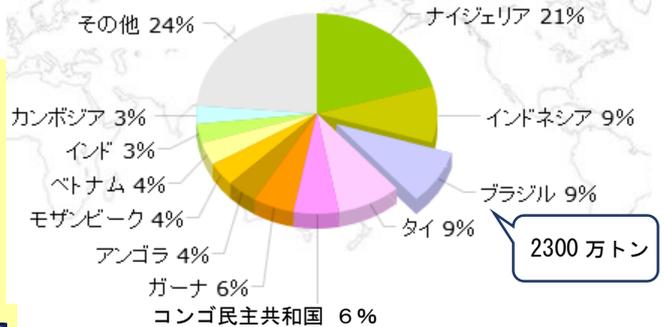
世界中で生産されている「いも」。日本の主食は米ですが、いもが主食となっている国も多いです。

世界的に生産量を見てみると、日本でもなじみ深いじゃがいも(1位)とさつまいも(3位)の間に「マンジョッカ」(英語名: キャッサバ)があります。南米原産で、主にあたたかい国で生産されていますが、ブラジルは第3位。様々な形となって、日常的に食べられています。

いも類の全世界生産量 (FAOSTAT 2010年)

1位	じゃがいも	3億2418万トン
2位	マンジョッカ	2億2954万トン
3位	さつまいも	1億0657万トン
4位	ヤムイモ(長いも・大和いもなど)	4870万トン
5位	タロイモ(里いもなど)	901万トン
その他	れんこん・こんにゃくいも など	

マンジョッカの産地 (FAOSTAT 2012年)



資料: 野菜情報サイト 野菜ナビ

これがマンジョッカいも。市場で売られています。



皮をむいてふくろづめされたもの。この店は、試食できるようにゆでたものも置いています。

↓茶色い皮をむくと、真っ白ないもが出てきます。じゃがいも同様、毒もち、そのままだでは食べられません。



↑ゆでた後あげた、マンジョッカ・フリットは、外はサクサク中はホクホク。

マンジョッカは、にもの料理にもよく使われます。



↑粉にして、チーズを混ぜこんで焼いた、「ボン・ジ・ケージョ」(チーズのパン)。モチモチとした食感です。ミストのボン・デ・リングは、これが由来だとか。



↑ボン・ジ・ケージョは、朝マックとなるぐらいブラジルでは一般的。



↑この木の枝のように見えるのが収穫の間ぎわのマンジョッカ。引きぬくといもが数本ついています。このくきを地中にさすと、そのままふえていきます。

↓マンジョッカいもから取り出したでんぷんは「タピオカ」と呼ばれます。日本でなじみ



のあるタピオカは、これを球状に加工したものです。ブラジルでは、左のようなクレープ状に焼いたものが、タピオカというデザートです。

ブラジルから

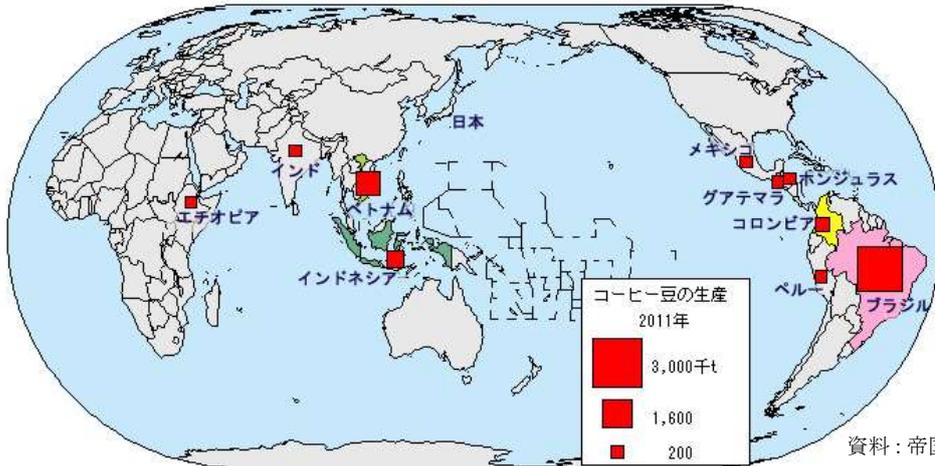


こんにちは Boa-tarde "ボア タールデ"

サンパウロ日本人学校

2015.7.12

No.3



● コーヒー豆 ●

日本の コーヒー豆の輸入先
2012年 38.0万t



ブラジルには、生産量が世界のトップクラスを占める農産物がたくさんあります。さとう（1位）、オレンジ（1位）、大豆（2位）、牛肉（2位）など。中でも、日本が大きく恩恵を受けているのが、コーヒー豆です。

サンパウロ日本人学校にもコーヒー園があり、6月に昔ながらのやり方でコーヒー狩りを体験しました。

↓ ① 実の収かく



真っ赤になった実を選んでとります。



真っ赤に熟した実は、“コーヒーチェリー”と呼ばれます。皮をむいてみると、種が2つ。しっかりコーヒー豆の形状です。



← ② 実の精選

葉や細かなごみを取り除き、実を取り出します。



↓ ③ 皮むき

乾燥させた豆をついて、皮をむきます。



← ④ 焙煎

火で熱してこがします。



ブラジルから



こんにちは
Boa-tarde
ボア ターデ

サンパウロ日本人学校

2015.6.4

No.2



●ブラジルの食料●

「フェイラ」とよばれる青空市が
さかんです。新せんな野菜、くだも
の、たまごや肉、魚などが売られて
います。フェイラは毎週決まった場
所で決まった曜日に朝早くから開
かれ、昼ぐらいまでやっています。

もちろん、スーパーマーケットも
数多くあり、いろいろな食料品や雑
貨が売られています。

スーパーの日本食コーナーには、ブラジル製のし
ょうゆやみそ、天ぷら粉などがなんでいます。↓



↑ **八百屋さん** ブロッコリー、はくさい、ほうれん草、大根、かぼち
や、キャベツ、ねぎ…、日本でもおなじみの野菜がならびます。

↓ **たまご屋さん** 地鶏(じどり)のたまごもあります。たまごかけご
飯にしてもおいしい！



↑ ↓ 日本と同じ

「MOYASHI」「SHIMEJI」と
いう名で売られています。



野菜や果物が入っていた段ボール
には、「SHIMADA」「Itimura」など日
本人の名前らしき記述があります。

日本人移民

ブラジルには現在約 150 万人の日系人（移民としてブラジルに
わたった日本人とその子孫）が住むと言われています。約 100 年
前、ブラジルの農場で働くために移り住んだのが始まりです。移住
した先での労働・生活はかなりきびしかったそうです。しかし努力
の末、農地を得て耕し、ブラジルの気候や土でも育つように野菜や
くだもの、花などの品種改良を行い、農業を広めていきました。

日本人の勤勉さが、ブラジルの食生活を豊かにしています。



ブラジルから



こんにちは
Bon-tarde
ボア タールデ

サンパウロ日本人学校

2015.5.4

No. 1

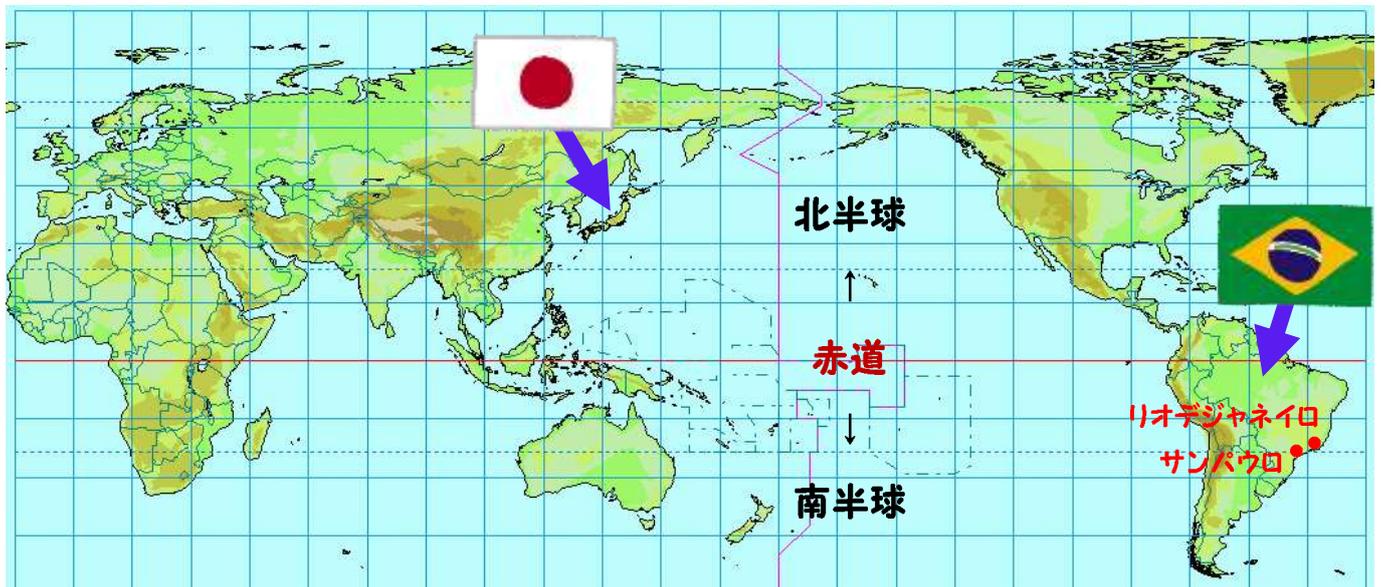


みなさん、おひさしぶりです。
元気になっていますか。時々、ブ
ラジルからおたよりを届けたい
と思います。 安東

●北半球と南半球●

ブラジルは日本の真裏にあります。時差は12時間。日本のお昼の12時（正午）が、ブラジルでは夜中の12時です。

そして、日本は北半球、ブラジルは南半球にあります。そのため、日本とはちがって、太陽は「東→北→西」と動き、正午には「北」の方角にあります。季節も半年ずれています。



今は夏から冬へ向かう途中。だから入学式は“ひまわり”の花を飾りました。校内にはカキの木もあり、今まさにたくさんの実がなっています。

でも、南国らしい植物もたくさん。バナナ、パイナップルなどの果物の他に、いろんな花も咲いています。それらが広大な校内（なんとサッカーのフィールド約17面分）に点在しています。

